



←24日朝、台風一過。よく晴れた。写真中央上の黒く見えるのが富士山。水があふれて河川敷は水没している。



→台風通過3日。流木などがからまった栈橋を修理する舟頭さん。

外は今日も雨。夜には台風二十二号が襲来するという。いまは嵐の前の静けさといったところだ。

先週の日曜日、夜のうちに通過した台風二十一号は矢切の特産品であるネギをなぎ倒し、江戸川の水をあふれさせ、河川敷を水没させた。

矢切の渡しは栈橋に大量のゴミ、おもに流木がからまり、その片づけに追われたがそれもつかの間、三日後にはふたたび台風が夜のうちに通過すると天気予報ではそういつている。

「泣きつつらに蜂」とは、こういうことをいうのだろうか？

「オレたちの仕事は日雇い労働者のようなものだから、雨が降ったら仕事は休み。お金もはいつてこない」

いつも舟頭さんが口癖のようにいうが、まさにそれが現実のものとなった十月だ。今日の台風でまた流木が流れるだろうから、せっかく片づけたのに明日になってみないと、どうなっているか予想もつかない。

私は毎日が日曜日のような暮らしなので舟頭さんのような悩みはないが、

## 今週のクマ

→とにかくクマはよく食う。水浸しになったペットフードを見つけて食いつくす。



→矢切の特産品。ネギも台風にあおられ乱舞状態。立ち直りかけたところにまた台風22号がやって来る。しばらく立ち直れないだろう。



それでも外に出られない日がこうも続くと体がもたない。

それだけ暇なんだから本でも読んだらどうだと思われるかも知れないが、読んでも頭にはいらぬ。はいらぬから読むうちに眠気に襲われてしまう。

何もやることがないのは贅沢ではないかと、若いときにはそう思っていたが、実際にそうなるとかえって苦痛ですらある。それは贅沢な悩みかも知れないが、実際にそうなのだからしかたがない。

ところで話はかわるが、台風一過の二十四日、矢切畑をまわっていたら稲刈りの終わったあとの田んぼに一匹の大きなコイが迷い込んでいた。どこからはいりこんだのか不思議だ。翌日、あのコイはどうしているだろうかと田んぼに行ってみたら、ものの見事に消えていた。

数年前の台風のおりには、河川敷ゴルフ場のバンカーのなかに、逃げおくれたコイが何匹も残って死んでいたが、あれは福島原発事故のあとのことだったので今から考えると、コイが持っている水の引くのを察知して川に戻る感覚が麻痺していたのではなかったらうか。

そんなことを考えた台風一過だった。